

ぶいが谷のお酒

昔むかし、あるところに、よいじいさんと悪いじいさんがいました。あるとき、よいじいさんが山の中で木を切っていると、木を切るたびにふしぎな音がしました。

ぶういぶうい

ぶいが谷に酒がわく



あんまり何度も聞こえるので、じいさんは、ぶいが谷に行ってみました。すると、谷に、お酒がいっぱいわきだしていました。ひと口飲んでみるととてもおいしくて、夢中むちゆうになって飲むうちに、じいさんは、よっぱらって眠ねむってしまいました。

すると、どこからともなく、たくさんのさるが出てきました。さるたちは、



「おや、ここにお地藏じぞうさまが寝ねておられる。どこかにお祭りしようじゃないか」と相談して、じいさんをついでどんどん走っていきました。

走っていくうちに、じいさんのきん玉がぶらりと下がりました。さるたちはこれを見て、

ぶらっと下がった なあんじやい

といました。じいさんは目をさまして、

お香かぐいのふくろ

とこたえました。またしばらく行くと、じいさんがおならをしました。さるたちは、

ぶうんと出たあ なあんじゃい

といました。じいさんは、すぐに、

お香のにおい

とこたえました。

やがて、さるたちは、じいさんを下ろしてすわらせ、お地藏さまのおそなえ物をいっばいおそなえして行ってしまいました。じいさんはそのおそなえ物を持って帰って、村の人たちに配りました。

となりの悪いじいさんは、それを聞いて、自分もそんな目にあいたいと思って、ぶいが谷に行きました。そして、お酒を飲んで寝ていると、さるがたくさんやってきました。さるたちは、じいさんをついでどんどん走っていきました。

そのうち、じいさんは、おならをぶっとしてしまいました。じいさんはおかしくてくすくす笑わらいました。するとさるたちは、怒おこって、

「またきのうのように、お地藏さまのまねをして、おそなえものを取っていこうというんだな。悪いやつだ」と、よってたかって、じいさんをひつかきました。

ゆうがた、ばあさんが山へ迎むかえにいくと、遠くのほうからじいさんが帰ってくるのが見えました。ばあさんは、

（うちのじいさん、赤いきれいな着物をもらってきたよ）と思ってよろこびました。ところが近づいてみると、かわいそうに、悪いじいさんはひっかききずで血だらけになっていましたとさ。

原話…『旅と伝説40』三元社刊「邑智郡昔話」より

再話…村上郁

